



高さ世界一の東京スカイツリー®に生きる、
堺のものづくり技術

INDEX

特集・日本が誇る堺の技術 ————— 1

株式会社ダイネツ／日本フツソテクノコート株式会社／株式会社川哲工業

気になる「さかい人」録 ————— 8

次世代の郷土への愛情を生け花を通して育てたい
「よく見よう郷土堺」の会 代表 片桐悦子さん

さかいモノ語り ————— 11

バッテラやこぶうどんなど、
大阪の食文化を守る堺の昆布
株式会社郷田商店



公益財団法人

堺市産業振興センター

Sakai City Industrial Promotion Center <http://www.sakai-ipc.jp/>

高さ世界一の東京スカイツリー®に生きる、堺のものづくり技術

世界一高いタワーとして、2012年5月に開業した東京スカイツリー。東京の新しい観光名所としても注目されています。その東京スカイツリーに、堺のものづくり企業の高い技術力が生かされていることをご存知ですか？今号は、その建設に携わった3社をご紹介します。

株式会社ダイネット 葛村和正 社長・葛村安弘 専務取締役

展望台の要を支える 熟練の熱処理技術

創業200年の老舗企業
大型品の加工技術を専門に

鍛冶・炭間屋として1813年に創業し、2013年には創業200周年を迎える株式会社ダイネット。江戸時代には「葛

籠屋安兵衛」の屋号で堺の地場産業である刀鍛冶を支え、時代の変遷に伴いコーキスの製造に着手、現在は船舶やプラント、自動車の部品など、グループ会社と連携し多種多様な熱処理加工を行っています。

熱処理加工とは、鋼を加熱・冷却して硬さや性質を変化させる工程で、見た目には加工後もほとんど変化がありません。しかし、熱処理により素材を柔らかくしたり硬くすることができるため、鉄鋼製品の加工においては非常に重要な工程を担っています。

江戸時代に交付された「鍛冶炭間屋 葛籠屋」の手形。



鶴飼(うがい)淳一工場長(右から2人目)と、東京スカイツリーの鋼材をはじめ大型品の熱処理を担当されている皆さん。

ダイネットが得意としているのが大型部品の熱処理。しかし、単体重量が10トン、15トンもの大きな製品になると温度のバラつきが生じやすく、場合によっては割れることも。「そのバラつきをいかに少なくするかがわれわれの技術です」と葛村安弘専務取締役は語ります。



▶「スカイツリーに使うと聞いたのは最後の最後。多くのテストをすることにより、より良い製品を作り上げる技術は、日本のものづくりの姿勢である。これからも他でできない品質に、トライし続けます」と語る葛村安弘専務。

◀堺商工会議所の副会頭としても活躍される葛村和正社長。「改善や改良など、感性を使ってものづくりを新しくしていくことが、日本の存在価値。ものづくりの基本は、日本で守っていきたい」。



リスクと闘い、 熟練の熱処理技術で 高強度の鋼材を開発

ダイネットに大手鋼材メーカーから東京スカイツリー建設用鋼材への協力要請があったのは数年前。設計のデザインで展望台を支えるには通常の鋼材では強度不足のため、ダイネットが大手鋼材メーカーとの共同で、より強度のある鋼材を開発することになったのです。

とはいえ、展望台を支える強度を持たせるには、素材の鉄にクロムやニッケルなどのレアメタルを加えた高合金の鋼材を、さらに熱処理によって強度を上げる必要があります。技術的に非常に難しい課題がありました。「強度を上げるには、加熱する温度もさることながら、素早く冷却する必要があります。ところが、早く冷却すればするほど割れる可能性が高くなる」と葛村専務。こうしたリスクを抱えながら鋼材メーカーと連携して適切な熱処理を模索し、ようやく条件に合う鋼材を作り上げることができたのです。

東京スカイツリーには、ダイネットの技術力が展望台を支える要に活かされているほか、グループ会社のダイネット商事も鋼板納入で建設に参画しています。「やはり嬉しいですね。社員にとっても、自分たちの技術が日本を代表するランドマークに使われていることは大きな喜びです」（葛村専務）。



35トンクレーンも装備している。

円高と燃料価格高騰のなか、 「ものづくりの伝統を守りたい」

伝統あるものづくりの町・堺で熱処理技術を活かし、産業界の縁の下の力持ちとしての役割を果たしているダイネット。いま同社に大きな壁として立ちほだかっているのが、円高と燃料価格の高騰。円高対策で取引先が相次いで海外に進出する一方、工業用ガス料金の引き上げでコストは膨らむばかり。この状況が続けば日本での熱処理産業が成り立たなくなるかもしれない。

「海外に出れば装置の改善や改良など日本人の感性でやれることが難しくなる。何よりも、日本のものづくりの基盤がど

らも堺でものづくりの伝統を守りたい」と熱く語られます。

「うなるか心配です」と話す葛村和正代表取締役は、堺商工会議所の副会頭という立場からも「中小企業のものづくりを維持することが日本の存在価値を高めることにもなり、そのための方策を考えていかなければ」と力説されます。創業20周年という大きな節目を迎え、「これか

株式会社ダイネット

代表者／代表取締役 葛村和正
本社／堺市堺区柳の町西3-3-1
TEL／072-229-0223 (代)
設立／1813年創業 1944年設立
資本金／5,000万円
従業員数／76名
事業内容／金属熱処理
加工全般



<http://www.dainetsu.co.jp/>

日本フッソテクノコート株式会社 林田武敏 社長

スピーディな問題解決を理念とする 技術開発力が高く評価されて

心柱の施工のための型枠に 高い耐磨耗性が求められて

日本フッソテクノコート株式会社に突
然、東京スカイツリーの施工会社から一
通のメールが届いたのは、2008年10
月。同社のホームページを見て、コンク
リート成型の実績があるかを打診してき
たのです。

長い年月、大地震にも耐えてきた五重
塔の構造をヒントに、東京スカイツリー
の中心部には心柱しんちゅうが設置されています。



高い撥水性と耐食性のうえ、静電気帯電を防止するフッ素樹脂コーティング「ECシリーズ」。



タイヤの原料となる生ゴムなど高粘着物のラインへの付着という課題は、表面に凸凹をつけた独自の「タックフリーコーティング」の開発で解決。

その心柱の施工に採用されたのが、大林組が独自に開発した「スリップフォーム工法」です。高さ37.5m、直径8mの筒状のコンクリート構造物を下から少しづつせり上げながら施工する工法で、狭い空間に短時間で心柱を構築できるほか、全く継ぎ目がないために高い強度を確保できるのが特長です。

日本フッソテクノコートに求められたのは、その心柱の施工で使用する型枠へのフッ素樹脂コーティングでした。砂利を含んだコンクリートを打設しては毎日何回かずつ上にせり上げていくなかで、型枠からコンクリートが離れやすく、しかも37.5mの高さまで樹脂加工が保持できる技術が必要だったのです。何度かの試験を経て、同社への発注が決定したのは2010

日本フッソテクノコート株式会社



全社員数16名。世界企業とも対等に渡り合う、「小粒でもピリリと辛い」少数精鋭のものづくり企業だ。

年6月末。同社製品の優れた剥離性と耐摩耗性が、高く評価されてのことです。

数々の課題を解決してきた 高い探究心と開発力

「今回の受注にあたって、被膜のつながりをさらに強化したコート材を新たに開発しました。普通、フッ素樹脂加工のフライパンを10円玉でこすると、フライパンに傷が付きませんが、このコート材は10円玉の方が傷つくほど強固なものです」と語る林田武敏社長。同社の強みは、まさにこの研究開発力にあります。

例えば、同社が独自に開発した「帯電防止フッ素樹脂コーティング」は、材料の付着の軽減といったフッ素樹脂の特性



「社員には全員、興味と好奇心を持ってと言っています。同じ仕事でもっと良い方法はないのかと“常に考える”ことが小さな会社だからこそ大切なのです」と語る林田社長。



エレベータと非常階段が設置される心柱の内部は、人の目にふれるため、きれいなコンクリート肌が求められた。同社の剥離性の高いフッ素樹脂コーティングが活かされる。



2012年8月に完成したばかりの新しい1号焼成炉。

はそのままだに、静電気は帯電させない画期的な技術で、引火性のある材料を入れるタンクなどの塗装に多く採用されています。

また、タイヤメーカー業界ではほぼ100%のシェアを誇る「タックフリーコーティング」は、同社オリジナルの地下技術と加工方法。フッ素樹脂の塗装面と材料を点接触させることで高い非粘着性を実現したものです。

「弊社の理念は、『お客様の課題解決』です。営業が吸い上げてきた課題は、その日のうちに研究チームに回し、3週間以内に最初の回答を出すように心がけています。そのフットワークの軽さ、スピード感こそが中小企業がアピールできる利

点ですし、実際にお得意先企業からも高い評価をいただいているところですね」（林田社長）。

世界のオンリーワン技術で ベトナム進出をめざす

今回、全国で注目される東京スカイツリーに同社がこれまでに培ってきた高い技術力が活かされたように、中堅企業がこうした大きなプロジェクトに参入するためには、「他社にない、そして大手企業にもないオンリーワンの技術を持つことだ」と林田社長は語っています。

どこにもないオリジナルの技術が求められ、海外に製造拠点を置く多くの得意先企業から、海外進出を誘われてきたという林田社長。いよいよ満を持して、3年後にベトナムへの進出をめざすそうです。

「海外で得た利益を国内に還元し、さらに経営基盤の強化にもつなげたいですね。海外に出るからには、その地域で、いや世界でのオンリーワンをめざします」と力強く語る言葉が印象的でした。

日本フッソテクノコート株式会社

代表者／代表取締役会長 豊岡敬
社 社／堺市美原区木材通2-4-8
TEL／072-361-1168 (代)
設立／1977年創業 1978年設立
資本金／1,000万円
従業員数／16名

事業内容／フッ素樹脂コーティング、ライニングの委託加工販売、積層合板プレス用クッション材の製造販売、ラバーフロンの製造販売、グリーンプレートの製造販売



<http://www.nf-technocoat.com/>

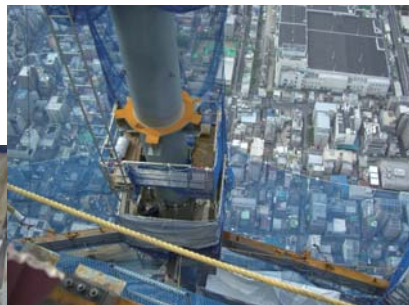
株式会社川哲工業 かがり 明松哲 社長

一流の技術者と最新鋭機材を擁して 溶接業界のトップクラスに

全国の溶接現場で活躍する 川哲工業の技術者と機材

堺区出島西町にある株式会社川哲工業の工場を訪ねると、場内はがらんとした作業をする社員の方もわずかでした。それもそのはず、同社の事業は日本各地のビルや橋梁といった大型鋼構造物の建設工事での溶接請負。85名の社員のほとんどが、全国の現場に入っているのです。「1年に1回、年度始まりの4月に全社あげての親睦会を行っていますが、参加率は60%ぐらいですね。全員が一堂に顔を揃えることはまずないです」と明松哲社長。

同社の実績は、最近の関西では一昨年5月にグランドオープンした大阪ステーションシティ（JR大阪駅）や、高さ日本一を誇るあべのハルカスなどがあり、大型鋼構造物における溶接といえば、真っ先に川哲工業の名が挙がるほどだといえます。社員全員が溶接技能の有資格者だという同社は、国内トップクラスの溶接技能者集団なのです。



東京スカイツリーの作業現場では、200m以上を超えると地上からの指示を伝える携帯電話の電波も届かないという。

難しい横向き姿勢の多かった作業現場。



東京スカイツリーの現場でも リーダー的役割を發揮

当然、東京スカイツリーの建設計画が持ち上がった時にも、同社の参画が想定されました。当初依頼され見積もりを提



現場溶接の真のプロといえる川哲工業の技術者たちと。



「高度な技術力を要する大型案件が少なくなり、競争が激化すると思われませんが、当社は手直しが不要な分、コストが低減できるということをアピールしていきたい」と明松社長。



直径2m以上の鉄管は4人がかりで3日かかったという。

さらに同社では、機材メーカーに要望を伝えてオリジナルに改良してもらおうなど、全国どこでも一般道を利用して運搬できる軽量でコンパクトな機材の開発に

独自に小型軽量化を図った機材も同社の強みに

さらには、建設現場全体の管理や、タワーの最先端部の溶接は川哲工業の技術者が担っています。明松社長いわく「営業らしい営業を行ったことがなく」とも大型プロジェクトに必ず声を掛けられてきたのは、こうした同社の技術者の技能の高さに他なりません。

出した先とは異なる企業に施工会社が決定しても、やはり川哲工業に溶接の発注があったのです。東京スカイツリーのあの美しい姿を構成しているのは、3万7千本以上の筒状の鉄骨。その現場溶接では時には難しい上向き溶接や偏狭な場所での作業も求められ、かなり高度な技術が求められます。建設に先立ち、発注者の鉄骨加工業者が独自の厳しい基準を設けて実施した技量試験では、同社の社員がトップクラスの成績で合格。他社との共同作業だったなかで、建設現場全体の管理の技術者が担っています。

取り組んできました。しかも、常に最新鋭のものを揃えるようにしています。「関西はもともと橋梁メーカーが多かったせいか、溶接業が盛んでした。そうしたなかで厳しい競争に勝ち抜こうと、弊社は大型鋼構造物の現場溶接に特化。そのための人材育成にも機材にも投資を惜しみませんでした。中堅のものづくり企業が、発注先から請われるようなポジションを確立させるためには、他社には負けない独自性を強みとして持つ事が重要だと思えます」と明松社長は語っています。

堺市産業振興センター 経営支援事業のご案内

経営課題にチャレンジする中小企業の皆さんを応援します。

【市場・技術のパートナーを探したい】

- ・マッチングコーディネート事業

【専門家に相談したい】

- ・専門家派遣事業
- ・堺発オリジナル商品魅力アップ支援事業

【人を育てたい】

- ・ものづくり経営大学
- ・各種研修(テーマ別、階層別セミナー)

【環境ビジネス・環境配慮型経営に取り組みたい】

- ・環境ビジネス研究会
- ・省エネ・省資源導入モデル事業(MFCA会計)

【産業支援・企業情報】

- ・メールマガジン
- ・さかいIPCプレス

【研究開発をしたい】

- ・産学連携の支援

【資金を調達したい】

- ・堺地域振興ファンド
- ・金融支援(融資保証業務)

▶お問い合わせ先

公益財団法人堺市産業振興センター経営支援課
〒591-8025大阪府堺市北区長曾根町183-5
TEL 072-255-6700 FAX 072-255-1185
E-mail : keiei_shien@sakai-ipc.jp
http://www.sakai-ipc.jp

株式会社川哲工業

代表者 / 代表取締役社長 明松哲
本社 / 堺市西区浜寺石津町西4-5-24
TEL / 072-245-7171
設立 / 1973年創業
資本金 / 1,000万円
従業員数 / 85名
事業内容 / 大型鋼構造物の溶接請負



「へうげもの」コラボ商品も販売！ 文化財特別公開の コラボイベントを開催

堺の貴重な文化財などを特別に公開する「秋季堺文化財特別公開」は“堺文化財特別公開×へうげもの ～安土・桃山時代の堺、一拳公開～”をテーマに、10月29日(月)～11月4日(日)の7日間開催されました。堺伝統産業会館では、この「堺文化財特別公開」のコラボ企画として「茶」「和菓子」「香」「華」をテーマに、お茶とコーヒーの試飲会や和菓子の実演、堺焼(金田焼)・湊焼などの焼き物を展示するほか、「堺高フェア」などを開催しました。



ものづくりの魅力を伝える「堺高フェア」



▲組みひもで割り箸をすだれ状にする作業。

▼「堺高フェア」で製作したすだれ照明器具。



11月3日・4日に2階研修室で開催された「堺高フェア」は、すだれ照明器具を手づくりする体験イベント。建築インテリア創造科の生徒の指導で割り箸を組みひもですだれにし、生徒たちが製作した部材を使って、おしゃれな照明器具を組み立てました。指導にあたった佐藤みよ子さん(堺市立堺高2年生)は「小学生の参加者が、最初は慣れない作業で大変そうだったのですが、完成したときにとても清々しい顔で『ありがとう』と言ってくれました。それがとても嬉しかったです。私自身も、ものづくりの素晴らしさを感じました」と笑顔で感想を語ってくれました。

名人の技に魅了された和菓子の実演

匠のひろばで11月4日に開かれた和菓子の実演では、堺市ものづくりマイスターで、この秋の褒章で黄綬褒章を受賞された美乃や三代目当主・高田和夫さんが熟練の技を披露。繊細な指づかいで美しい和菓子が作られていく様子を見学者は身を乗り出して見つめていました。

また、お茶とコーヒーの試飲会も多くのお客さまが列を作ってその味を堪能されていました。



▲名人の技に魅了された和菓子の実演。

▼お茶とコーヒーの試飲会も人気を集めました。



「へうげもの」コラボ企画



- ① 戦国武将の香りをイメージした線香「堺香伝説」
- ② 好評につき完売した注染手ぬぐい
- ③ ポリュームたっぷりの焼き菓子「へうげもの」

▼堺焼(金田焼)・湊焼など堺の焼き物を匠のひろばで特別展示。



匠のひろばでは、歴史漫画「へうげもの」(※)とコラボした文化財特別公開のテーマに合わせて、茶器などの千利休関連商品を特別展示しました。また、「へうげもの」コラボ商品として線香、和風焼き菓子、注染手ぬぐいも限定販売しました。

※歴史漫画「へうげもの」：安土桃山時代をリードした武將茶人・古田織部を主人公に、茶の湯、やきものなど日本文化の原点を描いた歴史漫画。「へうげもの」とは、人を笑わせる「鬨軽者(ひょうきんもの)」、ひいては個人的な美術品・工芸品を指します。作品の主人公でもある武將茶人・古田織部の代名詞的表現。

「よく見よう郷土堺」の会
代表 片桐悦子さん

1948年、東京都生まれ。花道みささぎ流二代家元であった夫・片桐弼氏を日航機事故で亡くした後、流派の中心として活動、インド支部の創設などに尽力。1996年に「よく見よう郷土堺」展をスタート。こうした活動が高く評価され、2008年に教育功労賞、2010年には堺市功労者賞を受賞。花道みささぎ流副家元。

真剣な表情で作品づくりに取り組む中学生のみなさん。



次世代の郷土への愛情を 生け花を通して育てたい

「郷土の堺のことを、次世代の中高生たちにもっと知ってもらいたい」という思いからスタートした「よく見よう郷土堺」展。第18回を数えるまで続いた同展について、発起人の片桐悦子さんにうかがいました。

堺発祥の花道みささぎ流が、市内の中高生の生け花指導に関わるようになったのは、亡くなった前の二代家元が学校における情操教育の大切さを説いたことからだといいます。

跡を継いだ片桐さんは、華道部という文化部の活動がなかなかスポットライトを浴びる機会がないことや、郷土・堺の良さを生徒たちがあまり知らないことなどから、「よく見よう郷土堺」展を思い立ちました。その手法はユニークで、包丁や昆布といった堺の地場産業の製品を生け花の花材に取り入れようというもの。それは、片桐さんが市内の大手鉄鋼メーカーなどからの依頼で、鉄やガラスだけを使った大作を発表し、高く評価されたことがヒントになったといいます。

「よく見よう郷土堺」展の第1回は自転車の部品でした。第2回の包丁は難しい素材でしたが、生徒たちには、生け花は見る人に不快感を与えるもの



昆布を素材とした第18回展で市長賞を受賞した軸丸志帆さんの作品。

であってはいけなさと常々指導していただきましたので、柔らかな発想でケーキを切る瞬間を表現した作品などが誕生し、私も驚かされました」と片桐さん。

使われる素材は、自転車の部品や刃物のほか、線香、和晒、昆布、木材、緞通の7製品。昨年はいよいよ、この7つの素材の全てを制覇し、コンプリート賞を受賞した人も現れました。

本活動の意義は、生徒たちが作品づくりを始める前に必ず勉強会を開催していることにもあります。「昨年の昆布では、ものづくりマイスターの称号を持つ昆布職人さんに講師を務めてもらい、技を極めることの尊さや人間としての生き方までも語っていただけて、私自身がとても感動しました」と語る片桐さん。

ここまで同展を継続して運営するには、並々ならぬ苦労もありましたが、最近、ボランティアで運営を手伝う卒業生たちも現れ始めたとか。生け花の指導にとどまらない片桐さんの活動が、次世代に郷土・堺に誇りを持つことの大切さをしっかり伝えていこうです。

「よく見よう郷土堺」展は毎年8月末に、高島屋堺店で開催されています。

<http://yokuniyousakai.jindo.com/>

環境・低炭素化技術企業認定事業

「第2回さかい環境チャレンジ企業認定」 認定企業決定!!



自社製品若しくは技術を活かして、低炭素化・省エネルギーを中心とした環境ビジネスに参入している堺市内の19社の中小企業者を「さかい環境チャレンジ企業」として認定しました。詳細はホームページをご覧ください。http://www.sakai-ipc.jp/news/news/kankyonintei-2.html

	企業名	対象商品・技術概要
1	(株)エイワット	LED STREET LIGHT
2	エース技研(株)	液体の精密定量吐出装置
3	(株)オカノプラスト	精密ショットピーニング、精密ラッピング
4	近畿電解錫工業(株)	アルカリ溶液を使った金属精製・電解剥離・表面処理技術
5	境川工業(株)	産業機械用熱交換器及び空調用ヒータ・クーラの設計製造及び技術的支援
6	三泉機械工業(株)	排水処理装置
7	高松銘木店	除湿二重通気工法
8	(株)ティーティーコーポレーション	高効率・高品質のダイカスト製品
9	トワロン(株)	錆びないフェンス
10	西田汽缶工業(株)	排出熱回収省エネ技術知識知恵の融合工事
11	日本メッシュ工業(株)	メッシュデミスター
12	ハグルマ封筒(株)	エコフレンドリーカラー
13	羽衣電機(株)	誘導加熱コイルの省エネ化
14	(株)ビー・ティ・アイ	ワイヤーソー主軸ローラーの溝加工及び付属部品
15	ミウラ化学装置(株)	プール用ろ過装置
16	ミナルコ(株)	アトマイズアルミニウム粉末の製造
17	(株)ユー・イー・エス	脱臭エコフィルター
18	リマテック(株)堺SC工場	亜臨界水プラント及び亜臨界水処理法による廃棄物の再資源化技術
19	(株)リンカイ	水処理装置機器ならびに製缶品製作

「第1回さかい環境チャレンジ」 認定企業のご紹介④

環境ビジネスに参入している堺市内の中小企業を「さかい環境チャレンジ企業」として認定しています。

詳細は当センターホームページをご覧ください。
認定企業を掲載した冊子は当センターで配布しております。

(株)中村超硬 ダイヤモンドソーワイヤ

主な事業内容：特殊精密部品/切削工具の設計・製造・販売、
ダイヤモンドソーワイヤの製造・販売等

ポイント：創エネ・省エネを支える高効率の切削工具。太陽電池の普及に貢献。

〒593-8323 堺市西区鶴田町27-27

TEL 072-274-0007 <http://www.nakamura-gp.co.jp>



八田工業(株) ミストコントロールによる真空熱処理加工

主な事業内容：金属熱処理加工全般

ポイント：産学連携により実現した油やガスに代わる新しい冷却法。クリーン&セーフティの次世代熱処理法。

〒599-8265 堺市中区八田西町2-18-40

TEL 072-277-7227 <http://www.hatta.co.jp/>



(株)テクノアオヤマ

エアースケープ式ナットフィーダー スタッドボルトフィーダー

主な事業内容：部品供給装置の開発・製造・販売

ポイント：ナット・ボルト溶接の高速化に貢献。省エネかつ高い安全性で世界中の車体工場で採用。

〒599-8253 堺市中区深阪1931-1

TEL 072-234-3320 <http://www.t-aoyama.co.jp>



根来産業(株) 使用済みペットボトルの再生・原料化

主な事業内容：廃ペットボトルの再生業、カーペット及び環境対応商品の企画・製造・販売・輸出入業

ポイント：原料から商品までの一貫生産で高品質のカーペットを生産。

〒592-8352 堺市西区築港浜寺西町8-13

TEL 072-268-0001 <http://negoro-eco.com/>



富士高周波工業(株) レーザ焼入れ

主な事業内容：金属熱処理(高周波焼入・レーザ焼入受託加工)

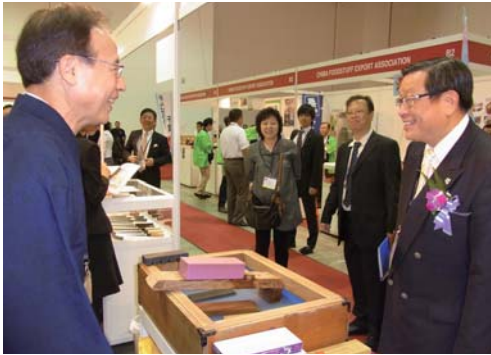
ポイント：高周波の豊富なノウハウを生かし日本で唯一レーザ焼入の受託加工をおこなう。試作段階からの提案で普及をはかる。

〒590-0001 堺市堺区遠里小野町2-3-15

TEL 072-229-0230 <http://www.fuji-koushuha.co.jp/>



「Oishii JAPAN 2012」へ出展しました



刃物製作所の刃物5社の出展に加えて大醬(醤油)とタマノイ酢(お酢等)の商品展示も行い、また堺ブース内、全体ステージ及び農林水産省ブースにて和包丁の「研ぎ」と「調理」の実演を行い、来場者の関心を集めました。

シンガポールでは共働き世帯が多く、所得が高いなどの理由で、家庭料理よりも外食産業が非常に発達していることから、プロの料理人にターゲットを絞って堺打刃物を前面に押し出した形での今回の堺ブースは、各企業の商談を後押しできました。

「Oishii JAPAN」自体は今年で2回目の開催ということもあり、来場者は3日間で約5,000人が訪れ、堺のPRができました。シンガポールでは和食や日本酒などが1つの「ステータス」として定着しつつあり、それに伴い、和包丁の需要も増えていくものと思われます。今回の出展はその第一歩として、堺の知名度向上と堺打刃物の品質をPRすることができ、今後のアジア地域でのさらなる市場開拓への弾みとなりました。

堺打刃物を中心とした堺食産品の海外市場開拓と堺の知名度向上を図るため、「堺食産品海外セールス実行委員会」として、11月1日～3日にシンガポールで開催された日本食の専門見本市「Oishii JAPAN 2012」へ初出展しました。

オープニングセレモニーでは、在シンガポール日本国大使館の安藤公使らとともに竹山修身市長がテープカットに参加し、堺食産品のトップセールスを行いました。

堺ブースでは株式会社青木刃物製作所、株式会社カネシゲ刃物、河村刃物株式会社、山本刃剣、株式会社山脇

1階常設展示場
堺のものづくりコーナー
出展企業のご紹介⑤
太陽パーツ株式会社

当センター1階では、ものづくり産業全般の製品を展示しています。さらにパネルでも企業の説明を行い、堺の今の産業を分かりやすく紹介しています。IPCプレスでは毎回展示企業をご紹介します。

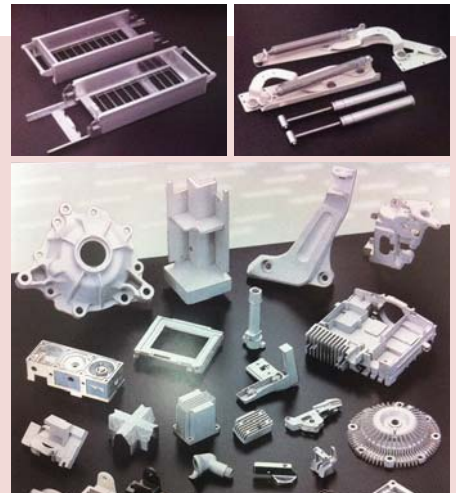
『太陽のように元気パワー200% 明るく熱く感謝の心で!!』

当社は、メーカー機能と商社機能を併せもつ技術集団として、よりよい商品とサービスをモットーにお客様第一主義を貫く企業です。受託商品の部品加工や、OEMでの設計・開発提案を行っています。

■主な製品情報

ソフトダウンウォール、フラップアップ、プルダウンラック、エコダイカストシステム、夢の新素材F.B.I

〒591-8014 堺市北区八下北1-23
TEL 072-259-9339
<http://www.taiyoparts.co.jp/>

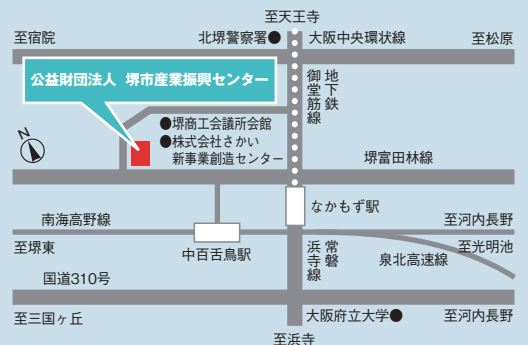


中小企業を全力応援

公益財団法人 堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5
TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200
<http://www.sakai-ipc.jp/>



◎南海高野線中百舌鳥駅より約300m◎地下鉄御堂筋線なかもず駅より約300m ※駐車場は、隣接の来客用駐車場(無料)がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

バツテラやこぶうどんなど、 大阪の食文化を守る堺の昆布

「なぜ、昆布が堺の特産品なのか？」不思議に思われますが、その歴史をひもとくと江戸時代にさかのぼります。北海道から日本海側を通り、下関、瀬戸内海を経由して、大阪堺を終着点としていた北前船の西廻り航路。北海道の良質の昆布が直接、堺に届けられていたのです。

大きな消費地・大阪をそばに控えて、堺では、北海道からの昆布を使って「おぼろ」や「とろろ」に加工する産業が発達しました。もちろん、堺特産の優れた刃物があったからで、最盛期の正徳時代から昭和初期にかけては、150軒以上の加工業者が軒を並べていたといえます。

株式会社郷田商店の郷田光伸社長は「置畳と包丁があればできたので、農家の次男や農閑期にする仕事として打つてつけどたんでしょね。ところが、高度経済成長期以降は他の産業に働き手をとられ、業者数は激減していきまして」と語っています。今では、組合に加入する12社のうち、昔ながらの手作業でおぼろをすいているのは数社のみだとか。そのうち、郷田商店は、後継者となる若手を育てています。

「昆布の表面をすいた後に残る、白板昆布はバツテラの材料となります。機械加工では残らず、職人の手作業ですいた昆布からしかとれません。大阪の代表的な食文化である、こぶうどんのおぼろや、ほんまもんのおぼろを守り伝えるためにも、手加工を途絶えさせるわけにはいけません。食生活が変化し、食卓に昆布がのぼることも少なくなりました。今日、郷田社長は塩麴と組み合わせた商品を開発するなど、次代に堺の昆布を残そうと意気込んでいます。

「昆布の表面をすいた後に残る、白板昆布はバツテラの材料となります。機械加工では残らず、職人の手作業ですいた昆布からしかとれません。大阪の代表的な食文化である、こぶうどんのおぼろや、ほんまもんのおぼろを守り伝えるためにも、手加工を途絶えさせるわけにはいけません。食生活が変化し、食卓に昆布がのぼることも少なくなりました。今日、郷田社長は塩麴と組み合わせた商品を開発するなど、次代に堺の昆布を残そうと意気込んでいます。



株式会社郷田商店



昆布の表面が職人の手によって、薄板のようにすかれていく。

昭和21年創業の郷田商店は4人の職人を抱えて、今も手加工にこだわった昆布づくりを行っています。昆布を漬ける酢は、創業当時から追いついてきたもので、「うちの財産」と郷田社長。「関西好みのしっとりとした昆布は、柔らかい昆布をすくことのできる刃物と職人技があっこそ生まれた」とか。

看板商品の「手づくりおぼろ昆布」は、酢と昆布だけの無添加商品。「これからも手加工を守り伝えていく一方で、若い人たちの感覚にフィットする商品を送り出していきたい」と話されています。

株式会社郷田商店
堺市堺区市之町東5-1-23
☎072-222-6688



郷田光伸社長